

岡豊風土



〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第111号 令和3年(2021)3月31日

高知県立歴史民俗資料館完成予想図 館蔵

当館に残る完成予想図は2枚。1枚は駐車場側から建物の全体がわかる構図で、開館前のパンフレットに使われている。本図は開館前のパンフにも使われておらず、印刷媒体に出るのは初めてかも知れない。ちなみに本資料は写真プリントで、原画ではない。

資料見聞

高知県立歴史民俗資料館 完成予想図

今から30年前の平成3年(1991)5月3日に高知県立歴史民俗資料館は開館しました。令和3年(2021)5月3日でちょうど30周年を迎えます。

当館ができるまでは、現在の高知県立文学館の建物が高知県立郷土文化会館と呼ばれ、美術館と歴史博物館、そして県展会場などのホール機能を兼ねていました。ただ、さすがに手狭で、昭和53年(1978)に高知県文化行政推進協議会が県立歴史民俗資料館の設置を提言、それから十数年にわたる準備期間を経てようやく開館にこぎつきました。

上の絵は当館の完成予想図です。岡豊山の一角に立つ三角屋根の白い建物。右側の駐車場、奥に行くに従って狭くなる入口の大階段など、現在の歴史そのままで。ですが、この絵をじつと見てください。どこか今と違って見えるような…。大階段手前の真ん中に丸い池があり、水路らしきものが中庭から伸びています。また、駐車場の入口にも丸い緑地帯があります。今の歴史には池や緑地帯はありません。どうやらこの絵は検討段階のものなのでしょう。花崗岩壁の建物本体だけではいかにも冷たいので、水や緑を配したのでしょうか。記録は確認していませんが、池や水路は危険だし、メンテナンスも大変などの意見が出て取りやめになったものと思われるます。絵を見ながら意見を交わす当時の担当者の声が聞こえてくるようです。

この絵を見ていると、新しい博物館作りに期待と夢をふくらませていた開館前に思いをはせることができます。

(梅野)

開館30周年記念 企画展 わたしたちの30年

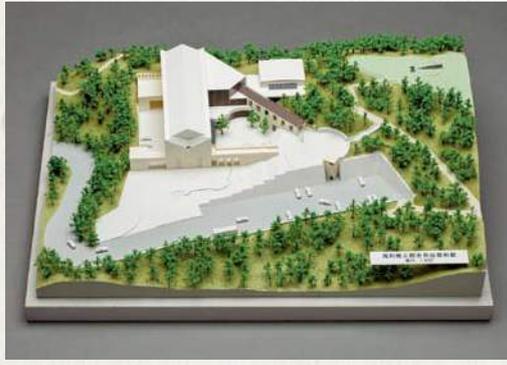
— 歴民の歩みと平成の土佐 —

会期：令和3年4月29日(木祝)～6月27日(日) 梅野 光興

開館30周年を迎える令和3年度、当館は一年間を通してさまざまな記念事業を開催いたします。

最初は、歴史民俗資料館の歩みを平成時代の歴史や文化と重ねて紹介する企画展「わたしたちの30年―歴民の歩みと平成の土佐―」です。歴民の活動を平成の土佐の出来事や時代の変化とあわせて振り返ります。

I 開館から最初の10年 試行錯誤のスタート



高知県立歴史民俗資料館建築模型
全体の形や構造は実際の建物とはほぼ同じだが、入口階段付近に水路があるなど異なる点もある。

同9年には県立文学館。県内市町村でも平成2年の高知市立自由民権記念館、同5年のわんぱくこうちアニマルランド、宿毛市立宿毛歴史館など平成は県内に博物館が一気に増えた時代でした。これは、昭和61年(1986)頃から平成3年頃まで続いたバブル景気とも重なって見えます。経済成長により豊かになった日本が次に目指したの

●バブル時代に誕生

当館が開館した平成3年(1991)には、坂本龍馬記念館とのいち動物公園など県立文化施設が三つも開館しています。龍馬記念館は有志の方々が建てたものですが、それにしても驚きです。その後平成5年には県立美術館、



純金かつお(展示資料は上ノ加江漁協所蔵の複製)ふるさと創生一億円事業で中土佐町が作った。

は文化でした。単にモノが豊富にあるだけでなく、心を豊かにするために文化施設が求められたのです。ただ、それでも「箱物」という言葉に表されるように、建物を作ることが博物館を作ることと思われていた節もあります。ですが、建物は出発点の一つに過ぎません。そこを拠点におこなう事業が博物館の命なのです。

当館の場合、開館当初は歴史・考古・民俗の学芸員が配置され(現在は美術工芸が加わっています)、調査研究、資料収集・保存、展示、普及事業などの博物館活動をおこなってきました。

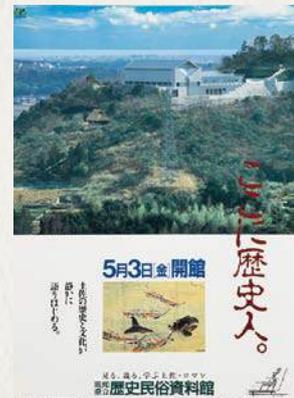
●手探りの10年

開館までとはかくオープンにこぎつけるだけで精一杯でした。開館した博物館で何をやるのか、手探り状態で展示をおこない、事業を増やしていったのが最初の10年でした。

バスで県内外を回る史跡巡り、小学校の週休二日制実施にともない始めた子ども歴史教室(現在のワクワクワークの前身)など他館の事例を参

考にしながら、少しずつ博物館としてのメニューを増やしていきました。当

ポスターで振り返る歴民の30年 ①



①歴民開館告知
平成3年
「ここに歴史人。」のコピーに悩んだ。



②土佐の古墳を掘る
平成6年
新発見の絵画銅剣が話題になった。



③秀吉と桃山文化
平成8・9年
「龍馬伝」に次ぐ観覧者歴代第2位、2万6千人。



④からくり 夢と科学の世界
平成10年
日本中から資料を借用。2万人が来場した。

館の企画展示室は他県の県立施設と比べて狭いので、3階総合展示室の資料を撤去し、そこを会場にして特別展をおこない好評を得ました。

● 歴民を支えた人々

蓄積の無い歴民を支えて頂いたのが、地域で活躍する郷土史家や県内外の研究者の方々でした。最初の常設展示を作り上げた文化振興専門者会議の先生方をはじめ先輩方の研究成果に助けられ、数々の企画展を開催いたしました。広大な県土の歴史・考古・民俗を数人の学芸員でカバーするのは不可能なので、県内各地の資料調査員の方々に、現地調査や資料借用にご協力頂きました。

館の教育普及事業や各イベントについてはボランティアのカルチャーサポーターの皆さん、地域の方々のご協力を頂きました。

そして何より資料を寄贈・寄託頂いた県民の方々のご厚意とご協力によって当館の活動が成り立っているの言うまでもありません。

ご協力頂いた皆様に深い感

謝をささげたいと思います。

ポスターで振り返る歴民の30年 ②



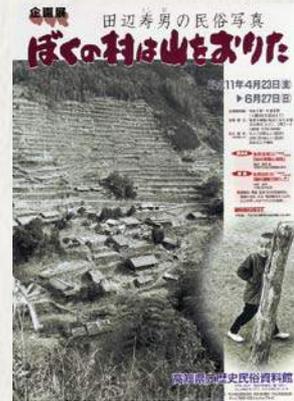
⑧鯉 カツオと土佐人
平成20年
四万十川の漁など高知の生業も取り上げた。



⑦長宗我部盛親
平成18年
開館15周年記念展。長宗我部展は当館の定番！



⑥あの世・妖怪・陰陽師
—異界万華鏡— 平成15年
観覧者2万1千人で歴代観覧者数第3位。



⑤田辺寿男の民俗写真
ぼくの村は山をおりた
平成11年 村の集団移住をとらえた心ゆさぶる記録。

II 21世紀を迎えて 博物館としての充実をめざして

国宝や重要文化財を展示する企画展などを開催しやすくなりました。また平成20年（2008）には、当館が立地する岡豊城跡が国指定史跡となり、城跡や戦国時代に関心のある方々に当館が幅広く知られるきっかけの一つとなりました。

これに加え、小泉内閣時代におこなわれた郵政民営化と同じ流れの中、平成18年（2006）にサービス向上とコストダウンを目指して、「公の施設の指定管理者制度」が導入されました。これにより、資料の撮影や写真利用を有料にするなど少しでも収入を確保するとともに、月曜休館を廃しサービス向上をうりました。以後高知県文化財団が指定管理者として数年ごとに指定され、現在に至っています。導入前は、職員一丸となって勉強会を開き、親しみやすく、楽しんでもらえる歴民を目指すことを再確認しました。

● デジタル時代の到来

平成の文化変化の最大のもの、やはりパソコンやインターネットの普及、携帯電話やスマホの発達でしょう。

当館でも古い書類を見ると、最初は手書きだったのが、ワードプロセッサやパソコンの文字に変わります。今では、パソコンで「キーボードを打

● 指定管理者制度の導入

がむしゃらに事業を拡大していった最初の10年が終わる頃、後回しになっていた収蔵資料整理に力を入れる方針に切り替えました。入館者は減りましたが、目録作りなど、県民の皆様への情報提供などに役立てるための館の財産作りは進みました。

これと並んで、博物館の運営に大きなメリットがある「公開承認施設」として文化庁の承認を平成16年（2004）に受けました。これにより、



パソコン 個人蔵
本体は日立製、OSはWindows 95。CDと3.5インチフロッピーディスクを使用。モニターはSONY製で1996年購入。



若武者もとかくんの歴史の日に
平成21年(2009)の歴史の日に
にデビュー。彦根市のひこに
んが2年前、くまもんが翌年誕生
し、世はゆるキャラ戦国時代!

登場した「長曾我部元親」が人気を呼ぶ中、地元公民館や有志の方々、南国市と協力して、平成22年(2010)から桜の季節の「さくらまつり」と「食1グランプリ」、5月中旬の「長宗我部フェス」

●長宗我部ブームと岡豊城
当館は、歴史・考古・民俗・美術工芸の歴史系総合博物館です。これらの幅広い分野からいろんなテーマを自由に扱える反面、特徴に欠けるとも言われますが、館が立地する岡豊城とその城主である長宗我部氏こそ他にはない歴史の強みです。
平成17年(2005)に発売され戦



リニューアル開館ポスター 2010年

国ブームを巻き起こしたゲーム「戦国BASARA」に「アニキ」の愛称で

Ⅲ 2010年から 長宗我部氏と歴史イベントの時代



ガラケーからスマホへの進化
左から、折りたたまないタイプ、折りたたみ型、カメラ付きになり、右端のスマホ(スマートフォン)になるとさながら小さなパソコン。

「つ」ことが事務仕事の大半になりました。出張にはテレホンカードを所持し、公衆電話に寄って館に連絡していたのが、一人一人が携帯電話を持つようになりました。
パソコンやスマホは仕事だけでなく、消費や娯楽、そして人間関係さえ変化させました。そして今では国家の歴史に影響を与えるまでになりました。平成はこの劇的な変化が起きた時代として後世記憶されるのではないのでしょうか。



リニューアル後の常設展示室(仏の間)

などが始まりました。歴史ファンばかりでなく、さまざまな方が集まるようになりました。

●リニューアル、龍馬伝、歴史イベント
平成22年のNHK大河ドラマが「龍馬伝」に決定。当館が全国巡回展の会場に選ばれました。

ただ、これまで特別展会場として使ってきた3階総合展示室は、開館時の模様が各コーナーに固定されていました。そこでこれを撤去し、よりフレキシブルな空間を確保するための改修工事と、あわせて常設展示のリニューアルもおこなう運びとなりました。しかし時間がありません。普通は数年かけてじっくり作るところですが、急に決まったので使える時間は半年程度です。それでも、最初の常設展示の弱点を改め、

ストーリー性のあるわかりやすい展示になるように努めました。「こーちくん」というキャラクターを使ってマンガで説明したのも工夫のひとつです。
4ヶ月ほどの工事休館を経て平成22年4月に再開館。夏の特別展「龍馬伝」は一ヶ月強で約3万5千人の入館者があり、当館の最高記録を更新。今後これを超えるのはなかなか難しいでしょう。
高知県としても「龍馬伝」を契機に歴史文化を観光の目玉に据える戦略が打ち出されました。同年の「土佐・龍馬であい博」です。当館においても、岡豊城跡の最上部・詰に櫓をあげるなど、キャンペーンの一翼を担いました。高知県の歴史観光キャンペーンは平成23年(2011)の「志国高知・龍馬ふるさと博」、平成29年(2017)の「志国高知・幕末維新博」と続きました。

そして平成27年(2015)には、2階正面入口に長宗我部元親の銅像(飛翔之像)が建立委員会によってお目見えしています。



特別展 龍馬伝ポスター 2010年

IV 2020年代に向けて 高知県の現状とこれからの歴民

● 変わりゆく高知県

平成は高知県に高速道路が延伸した時代でもありました。昭和62年（1987）に南国ICと大豊IC間が開通したのを皮切りに高知、須崎、四万十町と西進し、県東部とも徐々に結ばれています。瀬戸大橋によって本州と直結し、物流も大きく変わりました。陸路の発達のおかげで、高知県と大阪や九州を結ぶフェリーは全て無くなりました。高速道路の影響か、県外資本のスーパーやコンビニが増え、大型ショッピングモールが出来たことも平成のトピックでしょう。

一方人口減は進み、平成元年（1989）に約83万人いた県人口は現在では約68万人となっています。平成の大合併によって市町村数は53から34へ。多くの地域で産業は衰退し、高齢化や少子化が進み、祭りや芸能、地域の神社やお堂はもろろん集落の維持も難しくなっています。人が住まなくなつた小集落も

増えており、南海トラフ地震の発生も予想されるなか、高知県の歴史や文化は大きな危機にさらされているのです。

当館では、地域の歴史・考古・民俗資料を守るため、市町村や地域の方の相談に乗ったり、県立大や他館の学芸員と協働して資料調査をおこなうなど県内各地での地道な取り組みを継続しています。

● これからの歴民

30年目を迎え、これからの歴民は何を目指すべきでしょうか。

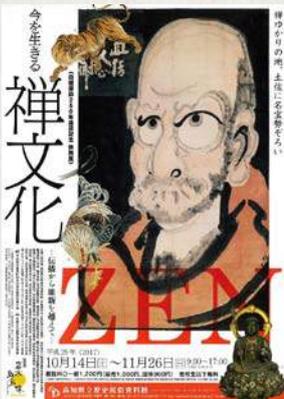
新型コロナウイルスの流行はこれからの社会のあり方に大きな影響を及ぼしており、博物館にとっても大きな痛手です。ただ、遠くへ出かけることを自粛せざるを得なくなった県民の方々に今一度地域を見直すきっかけを提供するのは当館の大切な役割です。また、デジタル技術を活用し、コ

ロナ禍の中でも博物館のサービスを提供することも求められています。



くろしおくん平成9年（1997）に誕生した高知県のイメージキャラクター。2002年のよさこい高知国体をはじめ、現在も活躍中。平成20年代のゆるキャラブームの先駆け的存在。

ポスターで振り返る歴民の30年 ③



⑫今を生きる禅文化
一伝播から維新を越えて一
平成29年 白隠250年遠
諱を記念し県内外の臨濟
宗寺院の名宝が勢揃い。



⑪いざなぎ流の里・物部
平成28年
香美市物部町の民間信仰
を地域の姿とともに紹介。



⑩四国霊場開創1200年記念
空海の足音 四国へんろ展
平成26年
会場 高知県立美術館
四国4県のミュージアムの
合同企画。



⑨命の碑
一土佐の地震・津波碑一
平成25年
南海トラフ地震に備えて過
去の地震を振り返る。

歴民のこれまでの企画展ポスターを現在から遡り紹介する「さかのぼり歴民」をフェイスブックで発信中。



カメラ
当館で資料撮影などに使ったカメラの数々。フィルム（左）からデジタルへ変化した。その場で画像を見ることが出来るインスタントカメラも資料借用時に活躍した。

遠い過去の出来事から、今を生きるわたしたちの歩んだ道までを「歴史」としてとらえ、未来を考えるための材料を保存し、利用していただくという原点を意識することが歴民のこれからの考える上でも大切だと思います。

高知県の文化も時代とともにどんどん変化します。その歴史を少しでも残し、未来へ伝えるのは当館の使命です。今回の企画展のテーマ「平成」は、博物館で取り上げるのはまだピンとこない方もおられるかも知れません。ですが、当館の対象は現代まで含みます。そして、平成も確実に「歴史」になっていくのです。平成の資料はまだ現役のようですが、古いパソコンなどは当館でも廃棄され、残っていませんでした。何を資料として残すかは難しい問題で、まさに学芸員のセンスが問われます。

高知県の文化も時代とともにどんどん変化します。その歴史を少しでも残し、未来へ伝えるのは当館の使命です。今回の企画展のテーマ「平成」は、博物館で取り上げるのはまだピンとこない方もおられるかも知れません。ですが、当館の対象は現代まで含みます。そして、平成も確実に「歴史」になっていくのです。平成の資料はまだ現役のようですが、古いパソコンなどは当館でも廃棄され、残っていませんでした。何を資料として残すかは難しい問題で、まさに学芸員のセンスが問われます。

コーナー展「千支の玩具 丑」

会期：令和3年4月29日(木・祝)～6月6日(日)



小幡人形の俵牛 (滋賀県)

ていたとのこと。牛は今も牛乳などを供給してくれる人間の生活に有益な動物ですが、牛節供の行事は、農耕や運搬に牛が盛んに使われていた頃のもので。

その頃の暮らしを反映した牛のモチーフが各地の郷土玩具にみられます。写真は小幡人形(滋賀県)の「俵牛」です。俵牛には牛の健康や五穀豊穡への祈りがこめられており、農家が神棚に俵牛を供える地域もありました。

毎年、年末年始に展示してきた千支の玩具シリーズですが、今年は工事後の再開館にあわせてゴールデンウィークから牛の玩具展が始まります。そこで高知県の民俗から牛にまつわる5月の「牛馬の節供」のご紹介からはじめましょう。

『四国の歳時習俗』によると、その日は牛馬を休ませる日で、例えば高知市高須や五台山、朝倉などでは5月15日を「牛の節供」といい、柴餅を作って供えました。また、高知県西部の三原村では5月5日を「馬節供」といい、たとえ田植えの最中でも牛馬を休ませ

牛が乗せているのは俵だけではありません。三次人形(広島県)や船渡張り子(埼玉県)には牛乗り天神のモチーフが伝わっています。学問の神として信仰される天神は、農耕に欠かせない雨をもたらす雷神でもあり、そこから派生した農耕神としての信仰も天神と牛を結びつけてきたようです。

各地の牛玩具に描かれている梅模様にも注目です。天神・菅原道真の好んだ梅の花が、その使いとされる牛の玩具に描かれています。

地域性や庶民信仰を乗せてゆっくりに着実に歩んできた牛玩具の数々をどうぞ展示室でお楽しみください。(中村)

吊り天井改修工事終わりました

令和2年9月7日からおよそ半年休

きました(②④)。

館し、耐震対策として天井部に落下物防止の吊りネットを取り付ける高知県発注の工事を行いました。地震等による天井からの落下物から、来館される方の命と安全を、そ

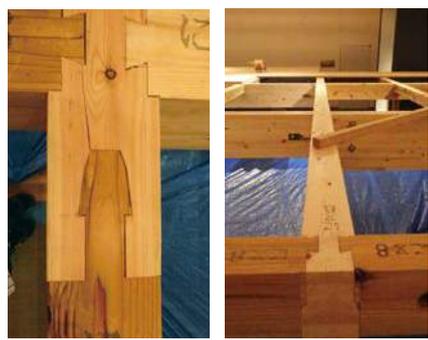
今後、館内における準備を行い、4月29日(木・祝)の再開館を迎えるとともに、皆さまのご来館を心よりお待ちしております。(西山)

して県民の皆さまの宝である資料(作品)を守るための対策で、総合展示室、長宗我部展示室、エントランスホール(吹抜部)に設置しました。

作業は、各展示室の資料と独立ケースなどを全て撤去することから始まり、作業用の足場設置や各箇所の養生、ネット取り付けの一連の作業から足場などの撤去まで一つ一つ慎重、丁寧に行いました。中世環溝屋敷群模型を覆う木製の養生製作には、大工職人の技を見ることもで



①展示室の天井の吊りネット



③釘を使わず材を組み合わせる職人技



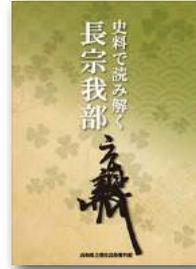
②模型の上に土台の骨組みを組み立てる



④見事に模型の養生が完成

図録「史料で読み解く 長宗我部」ついに発売!

開館30周年を記念して、長宗我部元親の書状など、当館がこれまでで収集してきた長宗我部氏に関する史料をほとんど網羅した図録を刊行しました。



表紙

元親の一生が、イラストでひとめでわかる「元親ものがたり」など、幅広い年代に親んでもらえる一冊になっています。

当館のミュージアムショップやホームページからお買い求めいただけます。
1冊1,000円(税込・送料別)です。
(石畑)



元親ものがたり

岡豊山でひとひねり。岡豊山投句箱

締切：令和3年5月13日(木)

休館していても岡豊山に春はきます。桜も咲きます。せつかくの春ですもの、ひとりで心置きなく、仲間と楽しく!「岡豊山を吟行する」というのはいかがでしょうか?

岡豊山の見どころをご紹介します。
まず、岡豊山には「自然がある」。桜をはじめ季節の花々、大きなクスノキも多く夏の深緑と木陰も心地よいものです。
つぎに、岡豊山には「歴史がある」。ここは長宗我部氏の山城跡。毎年3月の草刈り後は、すっきりと城跡の遺構がよく見えます。戦国時代に想いを馳せる、これもよいでしょう。

そして、岡豊山には「文化がある」。長宗我部元親はお茶を嗜み、和歌を詠む、文化人の一面も。趣のある茅葺屋根の山村民家の縁側で一服などもおすすめてです。
さあ、それぞれの岡豊山を楽しみ俳句を詠んで、投句箱(ポスト)へ。じっくり推敲してメールで送るという手もあり。選句して次回の岡豊山日に掲載する予定です。

また、岡豊山を気に入っていただけたら、ぜひ、夏・秋・冬にも。ちなみに、開館後は山村民家をお貸しできますので、ゆっくり「句会」にもご利用ください。(要申込み)



私が受け付けます

(総務事業課)

岡豊山フォトコンテスト

● 休館のため、延ばし延ばしになっていた「第15回岡豊山フォトコンテスト作品展」を開催します。
会期：令和3年7月9日(金)～8月29日(日)
9時～17時(最終日は16時まで)
会場：当館1階フリースペース、2階エントランスホール
会期中、いいなと思う作品に投票してください。
あなたの1票で「みんなのお気に入り賞」が決まります。

● 「第16回岡豊山フォトコンテスト」の募集も始まりです!
募集期間：令和3年7月2日(金)～
10月24日(日) 17時
今年もカレンダー、つくりまします!記念になる、記憶に残る作品をお待ちしています。(総務事業課)



第15回 最優秀賞
「岡豊山時空を巡る星」 濱渦修一

御城印バインダー、新発売!

「御城印」、お城ファンの来城記念として人気があります。

当館のスタンプラリーでも記念品としてプレゼントしていますが(4月18日(日)まで)、長宗我部ファン必携!御城印バインダーを3月1日から販売しています。
グレーっぽい紙表紙に「長宗我部」の文字と家紋が金で箔押し。とても渋い仕上がりです。
しかも!この御城印バインダーにリフィル10枚を追加、さらに岡豊城跡の「御城印」までつけて、1,600円(税込)です。全国のお城を巡った記念の御城印をこのバインダーにまとめてみませんか?

休館中は山村民家で、開館後は当館ミュージアムショップで販売します。
通信販売も受付中。初回分は100セット準備していますので、ぜひお買い求めください。



(総務事業課)

休館期間延長のお詫びと4月29日(木・祝)再開館のお知らせ

当館の館内改修工事のための休館について、令和3年2月28日(日)までとお知らせしておりましたが、4月28日(水)までに変更いたしました。館のご利用を計画されていた方にはまことに申し訳ありません。4月29日(木・祝)に再開館いたします。開館30周年の企画も予定しておりますので、ぜひご来館ください。

2021年 4月～6月の催し

れきみんの日(開館記念日)

5月3日(月・祝)は

今年には30回目の開館記念日です。毎回ご好評の「れきみんクイズの陣」や「坂本龍馬湿板写真(原板)」の特別公開をはじめ、歴民を楽しむ企画が盛りだくさんです。

●特別企画

「平成ゆるキャラばなし」
13:00～14:00

●ワクワクワーク

「昔の赤外線カメラ公開実験」10:00～11:00

講師：岡本桂典(当館副館長)

●企画展ミュージアムトーク

14:30～15:00

観覧無料!



館公式マスコットキャラクター
もとちかくん

開館30周年記念企画展

わたしたちの30年 - 歴民の歩みと平成の土佐 -

4月29日(木・祝)～
6月27日(日) 会期中無休

当館は今年、開館30周年を迎えます。館の足跡を企画展のポスターや写真等でたどり、平成の出来事や生活の変化と重ねて振り返ります。

●特別対談

「足もとの歴史を語ろう! - 高知の歴史文化と歴民館 -」

5月22日(土) 14:00～16:00

講師：吉澤文治郎氏、楠瀬慶太氏

要予約・先着50名・観覧料要

●ミュージアムトーク(担当者による展示解説)

5月3日(月・祝)14:30～15:00、15日(土)・6月19日(土)14:00～14:30

予約不要・観覧料要 講師：担当学芸員



高知県イメージキャラクター
くろしおくん

天然写真家 前田博史写真展

森ノ気配 R3 エ石

4月29日(木・祝)
～5月16日(日)

20年にわたって撮り続けてきた工石山の写真を初公開。森の息づく気配をお届けします。



コーナー展

干支の玩具 丑

4月29日(木・祝)～6月6日(日)

山崎茂氏の郷土玩具コレクションを中心に、干支の丑にちなんだ牛の玩具を展示します。



赤べこ(福島県)

民家で囲炉裏の火焚き

岡豊山歴史公園に移築した茅葺屋根の山村民家で、定期的に囲炉裏に火を入れます。次回は6月19日(土)開催

長宗我部氏の居城・岡豊城で 戦国の歴史を学ぼう!

岡豊山でひとひねり。岡豊山投句箱

投句箱を設置しました。岡豊山や山村民家で詠んだあなたの俳句を募集中。5月13日(木)まで

第12回 長宗我部フェス

5月15日(土) 10:00～16:00

迫力満点の鉄砲隊演武やステージイベント、講演会などで戦国時代を堪能!

企画展 やまもとただおき 土佐人 山本忠興と

予告 近代オリンピック

7月16日(金)～9月5日(日)



山本忠興写真
早稲田大学大学史資料センター所蔵

岡豊風日(おこうふうじつ) 第11号
令和3年3月31日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 0888(866)22211
FAX 0888(866)2110

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり

観覧料 (通常展)大人(18才以上)470円
団体(20名以上)370円
(企画展)常設展示込み520円
団体(20名以上)420円

無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳
所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神
障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被
爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)

印刷・川北印刷株式会社

<https://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/>
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示および関連イベントは中止・内容を変更する場合がございます。